



尾道市制施行 120 周年記念 開館 25 周年記念

圓 鶴 勝 三 彫 刻

平成30年9月4日火▶12月2日日

【開館時間】午前9時から午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】月曜日（祝日の場合は翌日）

【入館料】大人400円（320円）、高校生300円（240円）

※（ ）内は20名以上の団体料金

中学生以下無料 70歳以上、各種手帳をお持ちのかたは、証明できるものを提示により無料

【主 催】圓鶴勝三彫刻美術館・中国新聞備後本社

【共 催】尾道市立美術館

【後 援】尾道エフエム放送・ちゅピCOMおのみち・エフエムふくやま



圓鶴勝三彫刻美術館

ENTSUBA KATSUZO SCULPTURE MUSEUM
〒722-0353 広島県尾道市御調町高尾 220 番地
TEL.(0848)76-2888 FAX.(0848)77-0071



「動員学徒の記念碑の観音像」1967年



尾道市制施行 120 周年記念 開館 25 周年記念

えん つば かつ ぞう 圓 銛 勝 三 祈りの彫刻

尾道市御調町出身で、文化勲章受章の彫刻家圓銛勝三は、木彫を中心としながらブロンズ、陶彫、大理石など様々な素材を使い、浪漫的作風を展開しました。心を和ませ、自由で柔軟な発想の作品は、広島平和記念公園をはじめ、各地に置かれ多くの人に愛されています。本展では、圓銛勝三の平和への願いが込められた作品を中心に約 70 点を展示いたします。圓銛勝三彫刻美術館開館 25 周年にあたり、初展示の作品もございますので、ぜひこの機会にお楽しみください。



圓銛勝三プロフィール

明治38年(1905) 広島県御調郡河内村(現在の尾道市御調町)に生まれる。本名は勝二。
 大正10年(1921) 河内尋常高等小学校高等科を卒業し、京都の彫刻師・石割秀光の内弟子となる。
 15年(1926) 京都市立商工専修学校並びに関西美術院に学ぶ。
 昭和3年(1928) 上京。日本美術学校に入学。
 5年(1930) 第11回帝展に「星陽」を出品、初入選。
 7年(1932) 日本美術学校卒業。澤田政廣に師事。
 14年(1939) 第3回文展に「初夏」出品、特選。
 21年(1946) 第2回日展に「砂浜」出品、特選。
 22年(1947) 第3回日展に「しろうさぎ」出品、特選。
 25年(1950) 第6回日展に「土器を持つ女」出品、特選。
 26年(1951) 日展審査員となる。以後12回。
 28年(1953) 多摩美術大学教授に就任。
 33年(1958) 日展会員となる。
 35年(1960) 勝二を勝三に改名。
 37年(1962) 日展評議員となる。
 40年(1965) 第8回日展に「旅情」出品、文部大臣賞受賞。
 41年(1966) 「旅情」にて日本芸術院賞受賞。
 43年(1968) 日本美術家連盟委員となる。
 日本彫塑会委員長となる。
 45年(1970) 日本芸術院会員となる。
 46年(1971) 日展常務理事に就任。紺綬褒章受章。
 51年(1976) 勝三等瑞宝章受章。
 55年(1980) 日本彫刻会理事長に就任。神奈川県文化賞受賞。
 56年(1981) 日展顧問。御調町名譽町民第1号となる。
 57年(1982) 文化功労者に列せられる。
 63年(1988) 文化勲章を受章。
 平成元年(1989) 広島県名譽県民となる。
 3年(1991) 川崎市名誉市民となる。
 5年(1993) 伊勢神宮式年遷宮に際し神宝「神馬」を献納。広島県御調町に圓銛記念館開館。
 15年(2003) 逝去。

関連行事

【広島交響楽団アンサンブルコンサート】

日 時：10月13日(土) 午後7時～

場 所：圓銛勝三彫刻美術館

料 金：大人前売 1500円、当日 1700円

小・中・高生 1000円

お申込など、詳細は美術館まで

【ギャラリー・トーク】

当館職員による作品説明

日 時：9月22日(土) 午後2時～

11月4日(日) 午後2時～

※入館料が必要です。

【交通機関】

【JR利用】

JR尾道駅、JR新尾道駅から中国バス「市ふれあいの里」行き、「町民グランド入口」下車。

【車利用】

西からは山陽自動車道三原久井インター経由 国道486号で御調町へ、東からは山陽自動車道尾道インター経由 国道184号で御調町へ。尾道自動車道尾道北インター経由 国道486号経由、北からは中国自動車道三次インター経由 国道184号で御調町へ。



「正義の女神」 1963年



「祈り」 1965年



「月の光」 1977年



「ガラスのうさぎ」 1981年



「星より」 1983年